



研究者に至るパスも

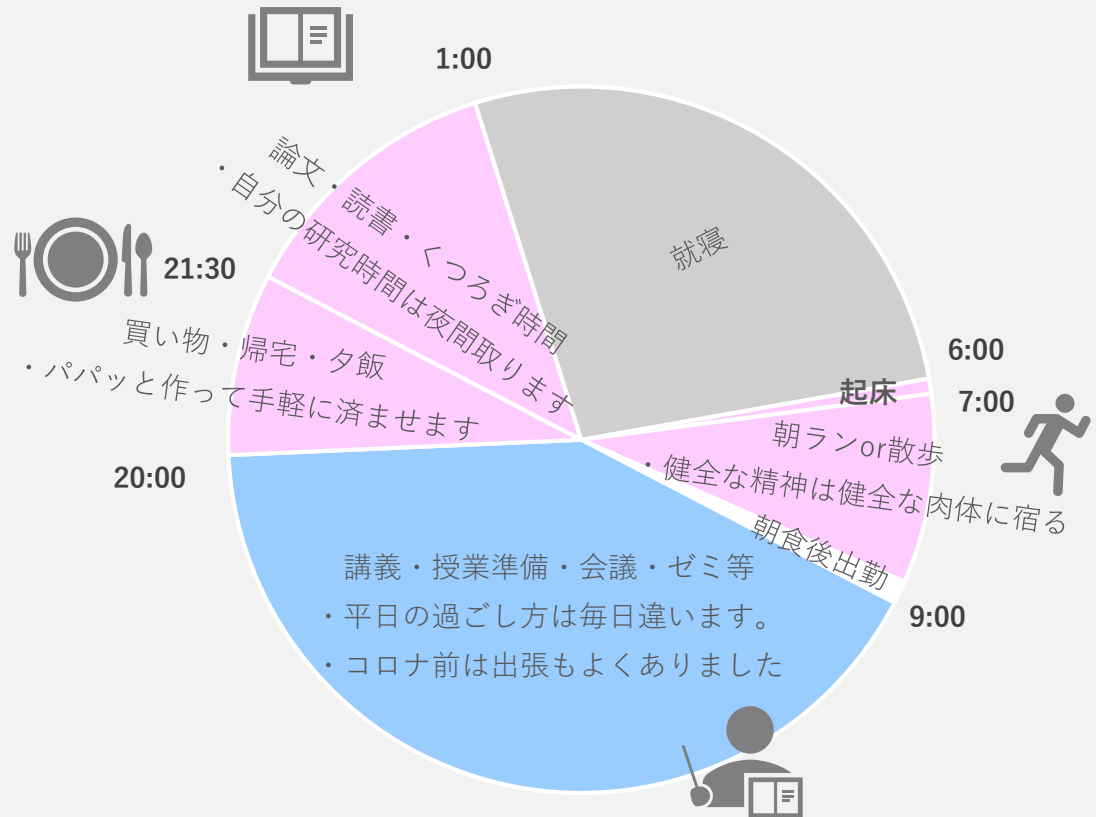
いろいろあります

まつだ ようこ

松田曜子さん

長岡技術科学大学
環境社会基盤工学専攻
准教授

✓ 松田さんの 日々のルーティーン



大学で働くようになってから、朝に走って体を動かすのを習慣にしました。朝ランは一旦脳をリセットするのに最適な運動だと思います。が、長岡は冬に運動がやりづらいことを言い訳に最近はやさしい気持ち。

✓松田さん “私のライフチャート”



出生~小学校 中学・高校 大学 大学院 NPO職員 研究者

主な出来事

出生~小学校	都会の小学校で過ごす	けがで入院。基本的に平穏なことが取り柄	自立に憧れて東京を出る。以後自由を謳歌	様々な国の研究者や学生との出会い。NPOの世界を知る	東日本大震災。社会がひっくり返ると思った	災害と暮らしやすい社会が研究テーマに
--------	------------	---------------------	---------------------	----------------------------	----------------------	--------------------

影響を受けた出来事人との出会い

出生~小学校	両親。世界地図が家に貼ってあって、世界に興味を持つ	最も気兼ねなくお話できる友人達	社会に出ても付き合える友人達	研究者にとってかけがえない研究仲間、恩師。	災害現場に通じるプロフェッショナルの友人達	長岡での仕事・生活を豊かにしてくれる人々
--------	---------------------------	-----------------	----------------	-----------------------	-----------------------	----------------------

成功体験

出生~小学校		ホームステイで外国の家庭に滞在したこと		博士論文を書いたこと	被災地で「おかえり」と言われたこと	研究者の仕事で明確に成功を意識したことはまだない
--------	--	---------------------	--	------------	-------------------	--------------------------

失敗体験

出生~小学校				「準備不足のプレゼンは他人の時間を盗むのと同じ」と言われる	被災地で「おかえり」と言われることを期待してしまったこと	同じく失敗もない
--------	--	--	--	-------------------------------	------------------------------	----------

✓松田さんにいろいろお聞きしました!

今のこの仕事(職業)を選んだきっかけは?

今の職業に限らず、その時々で自分が面白い、追究したいと思うものを追っかけてきた結果の職業選択です。

私は、NPO職員を務めていたことが、今の研究の発想につながっています。

この仕事を続けていてよかったと思うところは何ですか?

以前は、自分が研究をすることにのみ注力してきましたが、学生さんを指導するようになり、彼らが研究を通じて育つことに意義を感じつつあります。前者は「絵を描く」、後者は「花を育てる」に似ていて、どちらも捨てがたい魅力があります。

ロールモデルを教えてください!

生き方において特定のモデルを描いてきたことはありません。ただ研究者として、恩師は追い越したいけれど何時までも追い越せない存在です。

学生時代の自分を振り返って

前半は、ただ無限(と勘違いするほど)の自由な時間を謳歌していました。大学院以降は、研究室や自らの旅で世界の様々な人と出会い、自分の存在の小ささを感じる日々だったと思います。

ワークライフバランスについて教えてください!

年齢とともに変わってきました。若いときは「ワークがライフ」でしたが、年月が経つにつれて、それだけではない意味を人生に見出すようになったと思います。ワークは、自分の立場や能力を客観視しつつ、社会に貢献すること、ライフは、それが何であれ、何かの「当事者」として生きることだと思っています。相互補完的に人生を豊かにする要素です。

社会に出る前の皆さんへメッセージをお願いします!

人生の岐路における選択は、最終的には一人で行くものですが、人に話すことで整理できることもありますから、その意味で大学の友人も教員もフル活用してほしいです。相談にはスキルが要りますから、ぜひ大学で訓練を。

ぜひ大学で訓練を!